

日本短角種に出産、哺育される 黒毛和種子牛は発育が良い

日本短角種（短角牛）は、北東北の広大な牧野や山林における放牧に適用するように改良され、飼われてきた地方特定品種です。短角牛の放牧は北東北の草・土地資源の有効利用だけではなく、景観維持や環境保全など重要な役割を担っています。短角牛は放牧適性と泌乳能力が高く、この種に特有な飼養方法である夏山冬里方式の親子放牧により短角牛の子牛は育ちます。一方、黒毛和種（黒毛牛）は脂肪交雑（サシ）が入りやすく、市場価値が高い品種です。これらの短角牛、黒毛牛の各利点を活かした生産方式の開発に取り組みました（図1）。

《発育の特徴》

放牧地で胚移植により短角母牛から生まれ、育てられる黒毛子牛（放牧・短角母牛）は、牛舎で黒毛母牛に育てられる

黒毛子牛（牛舎・黒毛母牛；標準的な黒毛子牛の飼養方法）に比べて、哺乳期における体重増加が優れています（図2）。体高（背の高さ）や胸囲などの体型の発育も優れていることから、肥満になって体重が増えているわけではなく、背が高く、前駆（上半身）がガッチリとした肉用牛らしい体型に育っていることが分かります。また、短角母牛に育てられる黒毛子牛に、下痢など過剰な飲乳量から心配される体調不良はありません。

《期待される効果》

放牧で黒毛子牛を育成することにより、牛舎で飼う場合に必要となる飼料代や飼養管理、労働の節減につながります。また、黒毛子牛の出荷月齢を早めることで低コスト生産が可能となります。これらのことから、黒毛子牛の複合生産は短角牛生産地域の収益性向上と活性化に貢献し、土地資源の活用が促進できます。

畜産飼料作研究領域

山口 学

YAMAGUCHI, Manabu

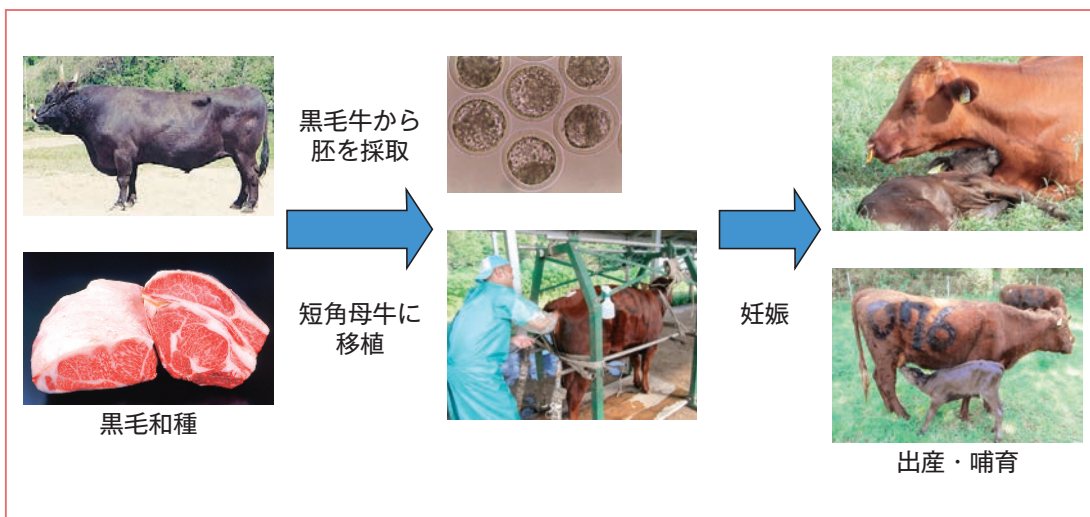


図1 / 短角母牛と黒毛子牛の複合生産方式

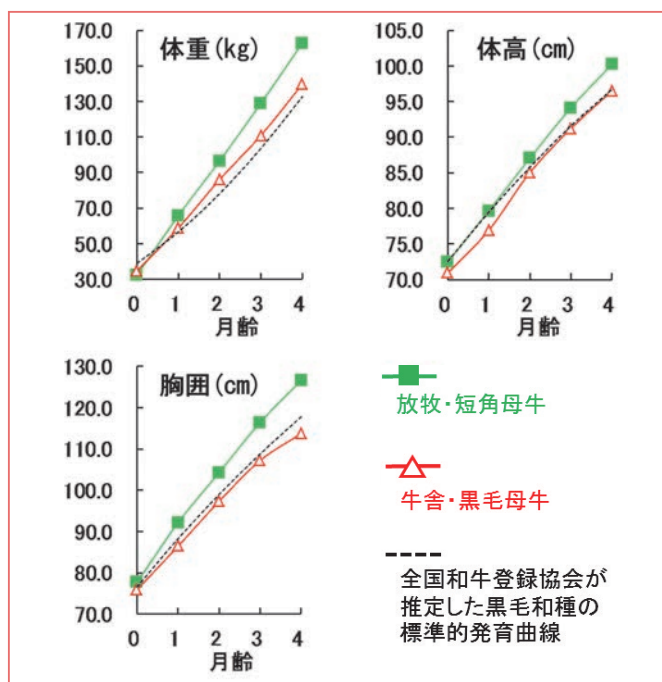


図2 / 黒毛子牛の体重、体型の変化